

事業報告

公益目的事業

寄付森林の適切な持続的管理を通し、吉野林業の森林育成技術の継承・発展及び森林に関わる環境教育の推進による一般社会への啓蒙を推進しつつ、その収益により学術研究活動の奨励及び振興を図る公益目的事業を以下の通り実行した。

1 学術研究者に対する研究助成金交付に関する事業

森林に関わる学術研究および技術研修、医学・看護の特定活動に対して下記のとおり助成した。

事業科目 (学術研究助成 3件)	決算額(円)	事業内容	公募等の形態
1) 京都大学大学院情報学研究所 准教授 小山里奈	400,000	森林・海浜砂丘・農地を利用するイノシシの食性と行動に関する研究: 農業被害をもたらす個体の自然植生に対する依存度の検討	奨学寄付金
2) 京都大学フィールド科学教育研究センター 講師 中島 皇	400,000	豪雨に伴う天然林からの流出有機物量・流出土砂量に関する実証的研究	奨学寄付金
3) 京都大学大学院農学研究科 助教 山崎理正	400,000	ブナ科樹木の密度がナラ枯れ被害の発生と収束に及ぼす影響	奨学寄付金
小 計	1,200,000		

事業科目 (特定活動助成 2件)	決算額(円)	事業内容	公募等の形態
1) 京都大学医学部附属病院 看護部長 秋山智弥	300,000	地域完結型医療における看護の役割と大学病院のあり方に関する検討	奨学寄付金
2) 京都大学フィールド科学教育研究センター 技術専門員 佐藤修一	300,000	森林施業遂行の為の森林管理技術取得及び知識の向上	奨学寄付金
小 計	600,000		

合 計 1,800,000円

2 森林に関わる学術研究に関する事業

当奨学会が管理・所有する森林は吉野林業地にあり、高齢樹・高品位の優良材の産地である。しかし、近年の林業の衰退により、高齢樹の人工林育成の技術の継承が困難となっている。育成技術は熟練者の持つノウハウとして蓄積継承されてきており、学術的には未解明の部分が多く、技術指針としてマニュアル化することは重要な課題、地域の発展に必須のものである。そのため、奨学会では森林の生育過程をモニタリングする継続的な調査プロットを杉谷山林の第1～第12林班に設置し、学術調査を行っている。調査資料をもとに高樹齢の人工林育成技術の解析を行い、その成果を学術誌に公表している。

3 森林の保全及び整備に関わる教育・指導に関する事業

当奨学会の森林は急峻な山地にあり、森林の管理経営の基盤として作業道を開設している。作業道による基盤整備と森林保全は相対する面が多いが、専門家の指導により適切に開設・管理しており、支障なく森林経営に貢献している。この技術やノウハウを当奨学会の森林を事例に、専門家の協力を得、広く森林経営者に啓蒙活動を行う。

4 森林を主体とした自然環境教育に関する事業

当奨学会の森林はスギ・ヒノキの人工林から成り、さまざまな樹齢の林がある。なかでも樹齢120年以上の大径木の林は自然への畏敬の念を奮い起こす。このような林を利用し、自然と人間の生業を多くの人々特に学生に体験させ、その重要性を学ばせ、環境・教育活動を行う。

5 寄付森林の管理運営に関する事業

当奨学会の森林を環境との調和を図りつつ、持続的な木材生産のために管理し適切な奨学のための収入を確保する事業を行った。森林育成に必要な造林(保育)、調査、施設整備事業を下記のとおり実行した。

事業科目	決算額(円)	事業内容
造林事業	4,202,620	杉谷山林第1・5林班 スギ・ヒノキ造林地の雪起し 杉谷山林第11林班 ヒノキ造林地保育間伐
調査事業	5,597,074	杉谷山林第1～12林班 スギ・ヒノキ 施業計画及び調査 杉谷山林第1・3林班 ヒノキ 売払木調査(神社鳥居に利用) 杉谷山林第4・5林班 スギ・ヒノキ 間伐木売払地刈払及び立木調査 杉谷山林第11林班 ヒノキ 直営生産:間伐木玉切、搬出 市場出荷、市売
施設整備事業	4,292,583	杉谷山林作業道 拡幅工事、砂利運搬敷均し、崩土除去、路面、 横断溝修理、歩道手入等

小 計 14,092,277 円

賦課金	40,000	立木売払いに伴い吉野中央森林組合に立木売買価格の2%支出
協力金	100,000	東吉野村杉谷区と申し合わせによる支出
減価償却費	218,295	

小 計 358,295 円

合 計 14,450,572 円